令和６年度　学 校 評 価 【 計 画 書 ・ 報 告 書 】

加賀市立勅使小学校 校長 細川 貴代　印

学校教育ビジョン
学校教育目標：自分で考え、自分から動き、自分の未来を創る勅使っ子の育成　～みんなが笑顔になれる学校を、自分でつくる、みんなでつくる～
・『自分で　自分から　自分のために』をキーワードとする授業改善
・基礎・基本の確実な定着
・特別の教科「道徳」を中心にした道徳教育の充実
・生徒指導の4機能を意識した授業や活動の実施
・「勅使っ子タイム」「体力アップ1校1プラン」による体力の向上
・家庭と連携した取組によるよりよい生活習慣の定着

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「確かな学力を育成」する子どもが主役！の授業づくり	・「教科のねらい」と「自立した学び手」を意識した授業実践 ・毎時の「学習のねらい」、「課題」、「まとめ」の整合、単元の「学びの連続性」を意識した計画による授業実践 ・児童の「学びの振り返り」をもとにした授業改善	学力向上 （西田）	・授業中に話し合いの場を多く設定する。 ・児童の「学びの振り返り」をもとにした授業改善に取り組んでいる。	【努力指標】 ・「学びの振り返り」を基にした授業改善を行うことができたか。	・「学びの振り返り」をもとにした授業改善ができたと回答した教職員が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員に対してアンケートを実施（7月・12月）	A（100%） （あてはまる12.5%、どちらかと言えばあてはまる87.5%）		1学期は振り返りの視点を共有し、算数の１単元を全クラスで取り組むことができた。教員それぞれが振り返りシートを用意したので、2学期は、振り返りシートの内容について共通理解をもち、各学年で取り組み、授業改善をする。
	自分の考えを持ち、ともに学び合う道徳授業づくり	・次の2点を観点にした授業構想シートの作成と活用した授業実践 ①道徳における3つの理解に視点をあてた教材分析 ②「教材のねらい」に迫る「発問」の吟味	研究 （加藤）	授業を構想する中で、児童の考えを十分想定していても、授業ではそれら以外の考えが出ることもあり、ねらい達成ができるための授業を構想し、実践する必要がある。	【努力指標】 授業構想シートを活用し、授業実践に努めたか。	「授業構想シートを活用した授業実践に努めた」と回答した教職員が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員に対してアンケートを実施（7月・12月）	A（83.3%） （あてはまる16.7%、どちらかと言えばあてはまる66.7%）		子どものゴールの姿をもとに授業を考えられるようにして、よりよい道徳の授業構想シートを作成することができた。研究全体会で行った授業構想シートの見直しをもとに、2学期はシート枚数や項目の順序の入れ替えを行う。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	4つの視点を生かした授業づくり	「共感的な人間関係の育成」の観点から、学校生活全体を通して、子どもが相手を多面的な見方で捉えることができるようにする。	生徒指導（山田千）	普段から学校生活全体を通して、他者理解ができるような取り組みをしている学年がある。しかし、全ての学年で行われているわけではない。	【努力指標】 学校生活全体を通して、子どもが他者理解ができるように努めたか。	「学校生活全体を通して、子どもが他者理解ができるように努めたか。」と回答した教職員が A　90%以上　B　85%以上 C　80%以上　D　80%未満	教職員アンケートを実施（7月・12月） 教職員が毎月振り返ることができるように、チェックシートを活用する。	A		授業を中心に、学校全体で「相手の話の聞き方」を指導した。 「相手の目を見る」「手を止める」「最後まで聞く」が少しずつ各学年でできるようになってきている。今後は、「うなずく」「質問をする」などの、反応の仕方を指導していくことで、「話を聞いてもらえている」と相手に伝わる聞き方ができるように指導していく。
③キャリア教育・進路指導	なりたい自分や集団をイメージし、目標に向かって努力する態度の育成（CCGs）	・学級や学校の実態から、児童会で今月の取組を設定し、全校で取り組む。 ・全校集会で各学級の成果や課題を発表したり、個人の取組カードを廊下に掲示したりすることで、「自分で、みんなで、よりよい学校をつくる」意識をもたせる。	学習指導 （山田千）	CCGsの目標が学年ごとで異なっていると、学校全体でCCGsの取り組み状況やなりたいイメージを共有しにくい。全学年でCCGsの目標を統一することで、全校児童が同じ目標を共有し、「自分たちで学校をよりよくしていく」という意識を持てるようにする必要がある。	【努力指標】 ・CCGsの取組を通して、「自分で、みんなでよりよい学校をつくる」ことができるように意識させたか。	「CCGsを通して、児童がなりたい自分や集団をイメージさせることに努めた」と回答した教職員が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員アンケートを実施（7月・12月）	A		CCGsの目標を学校全体で統一したことで、「自分たちで学校をよりよくしていく」という意識を持たせることができた。また、各学年の取組状況を廊下に掲示することで、職員が把握することができ、適切な声掛けにつながった。今後は、集会や児童会、代表委員会で児童の意見を反映させたり発言させたりすることで、取組に対する意欲を高めていきたい。職員間でも取り組み方や目標を共有しておくことで、学校全体で取り組めるようにしたい。
④保健管理	メディアコントロールと睡眠の関係を中心としたよりよい生活習慣の定着	就寝1時間前の行動に着目した「元気もりもりプロジェクト」の実施	保健 （山口）	平日のメディア使用時間が2時間以上の児童が61.2%と多い。また、就寝直前のメディア利用が睡眠に影響し、生活習慣の乱れにつながっている児童がいる。	【成果指標】 就寝1時間前のメディアコントロールに取り組む児童が増加したか。	「就寝1時間前に自分でメディア利用をやめた」と回答した児童、「児童が就寝1時間前にメディア利用をやめていると感じる」と回答した保護者がともに A　15%以上増加　B　10%以上増加 C　5%以上増加　D　5%未満増加	児童と保護者に対してアンケートを実施（元気もりもりプロジェクトカード）	D		第2弾の増加率は、児童が3.65%、保護者が－2.87%だった。児童と保護者の差も7.6ポイントから13.1ポイントに広がっている。親子の意識の差や、就寝1時間前にやめられなかった要因からアプローチした学校保健委員会を開催する。
⑤安全管理	教職員の「危機対応能力」と児童の「危機回避能力」の定着・向上	・不審者対応・火災・地震の3種の避難訓練の実施 ・各避難訓練における教員のねらい、児童のねらい及び指導のポイント「おかしも」「いかのおすし」の共有 ・実施後の振り返りの充実	生徒指導 （教頭）	R5も不審者対応、火災、地震の避難訓練を実施し、教職員と児童の能力を高めることができた。R6については、求めれらる能力がより確実なものとなるよう取組を充実させたい。	【成果指標】 （教職員） 「危機対応能力」が現状より高まったか（確実なものになったか）	「危機対応能力」が現状より高まった（確実なものになった）という教職員が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート （7月・12月）	A		肯定的な回答が100%だった。 教員の動きや体制についても、警察署員から「よい」との評価を受けた。 また、事後には、避難訓練の反省と警察署員からの指導・助言を全職員で共有し、対応を確認することで、対応能力を高めることにつながった。
					【成果指標】 （児童） 危険を察知し、自分の安全や命を守るための判断や行動ができたか	危険を察知し、自分の安全や命を守るための判断や行動ができたという児童が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	児童アンケート （7月・12月）	A		肯定的な回答が97%だった。 全児童が、「さえぐさ放送」で、不審者の情報や避難場所を正しく聞きとることができた。また、避難時は、「おかしも」の行動ができ、防犯教室では、命を守るための行動について理解を深めた。
⑥特別支援教育	児童理解と特性に応じた支援	・児童理解の会を月1回実施 ・専門相談員、特別支援教育アドバイザーを必要に応じて派遣要請 ・児童の実態に応じて個別の指導、少人数指導の実施 ・支援員の適切な配置	特別支援教育 （山田光／竹田）	気になる児童がいたときに共有する体制が整っている。共有後も継続的に児童に応じた支援が必要である。	【成果指標】 児童理解の会を通して児童の実態を共有し、その後適切な支援ができたか。	「児童理解の会を通して児童の実態を共有し、その後適切な支援をすることができた。」と回答した教職員が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケートを実施（7月・12月）	A		全職員が肯定的な回答をした。引き続き、児童の実態を全職員で見ていくとともに、情報共有もきめ細やかに行っていく。
⑦組織運営・業務改善	ICTを活用した業務改善	・Google カレンダーによる予定の一元管理 ・予定黒板をディスプレイに変更 ・Googleを活用した文書作成・情報共有 ・先進事例の視察・共有	管理 （秋野）	終礼や職員会議の議事録でドキュメントを活用。クラウド活用の良さを少しずつ実感している段階。	【努力指標】 校務を通してクラウド活用の良さを実感できたか。	【努力指標】 校務を通してクラウド活用の良さを実感できたという教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケート・ヒアリングを実施	A（100%） あてはまる50%、どちらかと言えばあてはまる50%		終礼のみならず、職員会議や学校研究も１つのドキュメントを軸に全員で共同編集することで、共通理解をはかることができた。ディスプレイも設置が完了し、予定の共有を開始できた。今後は、ディスプレイをより使いやすい形に変更していくとともに、校務の情報共有等の在り方の見直しを進めていきたい。
⑧研修	キャリアステージに合わせた研修への主体的な参画	・キャリアステージに合わせた研修の希望調査（4月） ・対話に基づく研修の受講奨励（8月） ・若手研修コーディネーターとの連携	総務 （教頭）	教員は、研修を通して、確実に資質・能力を高めている。今後は、さらに各自のキャリアを意識した研修の実施や現状に即した実践的研修も充実させたい。	【成果指標】 キャリアステージに合わせ、主体的に研修に取り組めたか。	キャリアステージに合わせ、主体的に研修に取り組めたという教職員（対象7人）が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート （7月・12月）	A		当初面談（5月）では、各教員と主任や担っている分掌の職務を確認したり、「高めてほしい資質能力」を共有した。それに応じて、各教員が、意識して研修を実施した成果であると考える。 中間面談（8月）においても、取組の進捗や「高めてほしい資質能力」についての自己評価を共有することで、2学期以降の積極的な研修につなげたい。
⑨保護者，地域との連携	家庭や地域との「目指す児童像」の共有、家庭・地域の力を活用した教育活動の充実	・各教科や各領域での学習のねらい達成のための外部人材検討、招へい （家庭、勅使地区、市、JA等）	総務 （教頭）	R5は、各学年とも1回以上、家庭や地域の力を活用した教育活動に取り組んだが、今年度はさらに充実・発展させたい。	【成果指標】 家庭や地域の力を活用し、教育活動の充実を図れたか。	家庭や地域の力を活用し、教育活動の充実を図れたという教職員（対象7人）が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート （7月・12月）	A		昨年度に引き続き、学校全体では「読み聞かせ」、「交通安全指導」、「クラブ指導」で、地域の力を活用した教育活動に取り組んでいる。また、各学年で、音楽への参加、陶芸や米づくりの先生としても地域の力を活用できた。2学も学校全体・各学年において、1回以上は地域の力を活用した教育活動に取り組んでいきたい。
⑩教育環境整備	適切な管理、補充、修繕等による教育活動への支援（文書・施設・備品）	・文書の割り振りと管理 ・提出物等への確認（声掛け） ・安全点検の実施と改善箇所への対応	事務 （東／教頭）	R5は適切な文書・施設・備品等の管理や補修等により、教育活動を支援してきた。今後も適切な管理、適時の補充や修繕により教育活動を支援したい。	【成果指標】 文書・施設・備品等の管理や補修等により、スムーズな教育活動ができたか	文書・施設・備品等の管理や補修等により、スムーズな教育活動ができたという教職員（9人）が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	教職員アンケート （7月・12月）	A		肯定的な回答が100%だった。 事務主査主体で文書の割振り、備品の管理や補充を適切に行った。また、安全点検では、点検者から挙げられた不備のある個所についても早急に対応した。

学校関係者評価	【中間 8.27】 ・今年度の取組の重点に「健やかな心身の育成」とあるが、8月下旬の段階で、子どもたちは元気なのか、挨拶はしっかりできるのかが気にかかる。地域としても、まちづくり推進協議会を中心に挨拶運動に立つ予定である。学校と地域と連携して、健やかな子どもの育成に努めていきたい。 ・今年度は、夏休みの自由水泳が実質できなかったことについて、学校側が安全面を十分配慮して、中止の基準を熱中症警戒アラートのレベルを28としたことを理解した。 ・児童全員が個人のタブレットを授業等で活用していることが分かり、ICTを活用した取組が進められていることを理解した。